かかわりあい，確かに豊かに伝え合う国語科の授業

愛知県岡崎市立六ツ美西部小学校
武田玲香（たけだれいか）

【実践の内容】

「『おもちゃまつり』へようこそ」の実践を通して，２年生の児童に確かに豊かに伝え合う力を付けることをねらった。おもちゃ作りを紹介する相手を１年生とし，聞き手を意識したおもちゃ選びや台本作りができるようにした。また，「おもちゃまつり」を開いて，実際におもちゃの作り方を教え，一緒に遊ぶ場も設定した。年下の相手に自分の伝えたいことを理解してもらうため，易しい言葉を選んで台本を書いたり，丁寧に話そうとしたり，材料の見せ方を工夫したりする姿が見られた。

【論文内容の紹介】

１　児童の実態

相手に聞いてもらえるように話すことや，まとまりをつけて書いたり話したりすることがなかなかできないという実態があった。

２　めざす子どもの姿

○場面や状況，相手に応じて，声の大きさや話し方，資料の見せ方などを工夫し，豊かに伝えることのできる子

○話の順序や使う言葉を考え，相手に分かりやすいように，確かな言葉で伝えることのできる子

３　研究の手立て

おもちゃ作りを説明する対象は１年生のペア学級とし，おもちゃを作って遊ぶ場を設定する。１年生と交流することで，２年生児童の言葉の力だけでなく，１年生を思いやる心も育つことを期待する。

台本を書く段階では，教科書の例に加えて教師が作成したものも使い，台本の意味や書き方を理解する手助けとする。良くない台本例も示し，指示語の多様を控えたり，難解な表現を避けたりして，言葉を大切にした台本作りができるようにする。発表練習のときも，教師が紹介する場を設け，話し方や材料の見せ方の手本を示す。

学習形態は，おもちゃの作り方・遊び方をまとめる活動と台本作りの活動は個別学習とし，個々の児童の書く力をとらえて的確に支援する。その後，グループ学習としてかかわり合える場を増やし，評価し合い，学び合えるようにしていく。

４　単元計画

(1) おもちゃの作り方・遊び方をまとめよう
　①おもちゃの試作をしよう
　②個人で「まとめ」を書こう
　③グループで「まとめ」を書こう
(2) おもちゃ作り方の台本を作ろう
　①台本の例を見よう
　②台本を書こう
(3) 分かりやすい話し方を練習しよう
(4)「おもちゃまつり」をひらこう

５　成果と今後の課題

対象を１年生としたことで，易しい言葉を選び，順序を考えて台本が書けた。相手の理解度に応じて，工夫と努力をしながら話せ，少しだけお兄さん・お姉さんという自覚と思いやりをもって接することができた。

話す・聞く活動では，日直のスピーチのように毎日繰り返すことで効果が上がった。

書く活動では，文型・話型の練習を繰り返すことで児童の使える文のパターンが増えた。ただし，いったん覚えた文型でも忘れることがある。確実に使えるようになるまでは，根気よく指導する必要がある。

児童相互の評価やグループ活動は個や全体の力を向上させるのに有効であるが，その力が一時的なものでなく，個の中で定着し，生きて働くようになるまで見届ける必要がある。